

日本研紙

公園美化活動を開始

自社の技術や製品活用

研磨材の総合メーカーの日本研紙(株) (福山市草戸町3-13-25、渡邊淳社長、TEL084・923・6688)は福山市と協力し、市内公園の美化活動を始めた。研磨材製造の技術を生かした地域貢献活動の一環。老朽化した遊具や備品のさび・塗装はがれを自社の研磨材で除去した後、ペンキを塗り直す。会社付近の公園から取り掛かっており、8月13日、21日には鷹取公園で実施。今回は野上南公園で行う。

創業から88年間、福山市草戸町でさまざまな工業製品向けの研磨材を作り続けている同社。新型コロナウイルスの影響で明るい話題が減っている中、地域に笑顔をもたらしたいとの思いから今回の活動を始めた。



の活動を始めた。従業員同士でアイデアを出し合い、子どもたちが安心して遊べる公園づく

くりに取り組むことを決定。すぐに市へ連絡し、公園緑地課との協力体制を確立した。

塗装に使用するペンキは市から提供されている。近隣地域の子ども会からも活動に賛同を得ており、今後はコロナの感染対策を講じながら、子どもたちと一緒に研磨や塗装作業を行うことも検討中だ。

2016年、東証ジャスダック上場の大手研磨材メーカーであるNipox(株) (マイポックス、東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル31階、渡邊淳社長、TEL03・6911・2300)の子会社となった同社。マイポックスはボランティア活動を業務内に組み込むことを推奨しているため、日本研紙も同活動を長期的に継続する予定。市内全ての公園美化を目指す。また従業員が実際に自社製品を使うことで、高品質なものがづくりを担っている自負や改善点への気付きなども生まれているという。

同社の取締役・製造部部长の山田達郎さんは「創業以来お世話になっている地域の皆さまへ恩返しするとともに、地元の方々に日本研紙を知ってもらおうきっかけになれば、『塗る・切る・磨くで世界を変える』が当社の理念。長年培ってきた技術とノウハウを生かし、まずは地域を明るく変えていきたい」と話す。